屋根葺上研究要項

一、堅牢ニシテ重カラズ輕キニ失セザル瓦ナル事
二、價格低廉體裁優美火事ニ平氣地震ニ安全ナル事
三、炎熱ヲ遮斷シ寒氣ヲ防ク火モ水モ酸モ荒天モ其他凡テ天然ノ威力ニ抵抗力強大ナル事
四、大量製産製品優秀諸般ノ設備完成セル工場ヲ撰擇ノ事
五、建築界ノ權威ノ學府ニ於テ品質ノ試驗證明ヲ經タル事
六、實行盛ナルト年上后二年以上經過シタル屋根ヲ實地視察ノ事
七、置土ヤ漆喰セズ且年々手入ヲ要セザルヲキ方簡易ナル事
八、需用盛ナルヤ在庫豊富ナルヤ工場緊張セルヤ視察ノ事

萬年瓦ハ益々盛況ヲ告ケ從テ營業モ極メテ順調ニ發展致候事
偏ニ各位御同情ノ賜ト社員一同感謝ニ不堪次第ニ候

仙臺高等工業學校長試驗御證明

鐵道省　福島縣廳　栃木縣廳
磐城セメント株式會社　秩父セメント株式會社
入山採炭株式會社　磐城炭礦株式會社

御指定先

福島縣四倉町　萬年瓦工業株式會社（電話三八番）
同　平町　堀江工業株式會社（電話特長五一九）

下谷區御徒町三町目八十七番地　東京出張所（電話淺草六二九二）

常磐毎日新聞
九月二十八日夕刊
定價　一部金貳錢　一ヶ月壹錢　郵税五厘
廣告料　五號十二字詰一行五十錢
休刊日　毎月一日　祝日ノ翌日
發行所　福島縣石城郡平町長橋町三五　常磐毎日新聞社　電話六三〇番
發行兼編輯人　印刷人　川崎文治
印刷所　福島縣石城郡鎌治町十一番地　本社專屬磐陽社

自彊術に入りし動機と所感（三）

田卷榮一

常磐毎日新聞

其當時は只兵式體操の變態だらう位にしか思はず、格別讀まうともせず其儘にして置いたのを思ひ出して本箱から當時『六正九年六七月頃』の實業之日本をとり出し號を追ふて中井先生の解説を讀み、其自彊術の頗る合理的なるに感じて實行にとりかゝりました「後に講習を受けた時自分の本の解説でやつたのと多少相違の處もありましたが只一二箇所の動に過ぎませんでした」

日に二回勵行する内に、何んとも云はれぬ快感に打たれて靜座法の當時は力めて腹に力を入れて居つたものが、今度は自然に腹に力が充實して來ました、力を入れゝば堅くなり抜けば柔に平常の通りになります、起きるから寢るまで、力の入れづくめの靜座法の重苦しい感じのした時代に比して實に雲泥の相違があつたのです、殆めてから一ヶ年許りのうちに、持病の胃腸病が忘れた樣になり、食慾もすゝむし氣分も爽快になり殊に驚いたことには以前は寒中の水は口中に入れると齒にしみて堪へられなかつたのが、何時の間にかしみなくなつた事です、食物の嗜好にも變化を來たしまして、晩酌の待遠しかつた酒も欲しくなくなり、そして野菜物がすきになつた事です、今日ではあれほど胃腸藥よ滋養劑よとあびる程飲んだ私が全然其必要がなく體質も一變して肩幅が廣くなり、胸は厚くなるし從つて體重も十九貫八百を算して見ちがへる許りの健康體となりました。これも偏へに自彊術の御蔭で年來心掛けて居た體質改造が茲に初めて遂げられた譯です

（つゞく）

辨當を開いて中味を一寸拜見

▽……各工場從業員の ▽……攝取する營養量 平署が調査に着手

最近の行きつまつた不景氣には各方面とも相當に打擊を受けて居る、しかし物持ちの打擊はもうかる金がもうからずせい澤が

出來ない といふ程度のものであるが貧民階級者になると直ちに生命に關する食糧問題に及ぼすといふまことに悲慘なものが多い、この問題はひいて國民保健に關する重大問題になつて行くので平警察署ではこの際管内

各關係者 と協力し一般下層民の平生攝取しつゝある營養價を調査する事となりその準備に着手したが、もとより全般的にわたる調査は容易なことでないので

差し當り 各工場從業員の持參する辨當について調査を行ひそれによつて營養攝取量を測定するはずであるが本調査の結果は重大な意義を持つもの故極めて正確を期すべく充分の

注意を拂 ふはずであり營養價の少い工場を發見した場合は監督官からその工場主に注意を求め便宜の處置をとると

最低は僅かに五錢

炭礦勞働者の賃銀 ▽……現在數十六萬人

石城郡内の鑛山に働いて居る人員は次の如くであるがこれ等勞働者の賃銀は最高一日五圓十三錢七厘、最低五六錢といふ額で平均男二圓十錢、女一圓五十錢位である、しかしこれ等は各炭鑛を通じこの計算でなくこれよりもズット賃銀が安いところも少くない

（三井炭鑛湯本鑛業所）一四八八人（入山採炭會社第四坑）二九六一人（古河炭鑛好間鑛業所）七六〇人（磐城炭鑛宮高坂トジ鑛）五一七四人（小野田坑）一三六四（福島炭鑛會社）六六二（小田炭鑛第一坑業所）一九六（同第二坑業所）七三八（品川白煉瓦赤井鑛業所）九七（大北炭鑛）三五（九菱炭鑛）一七六（入山採炭會社川平坑）六九〇（朝鮮炭坑）一六三（不動澤炭坑）一三五（浪花炭坑）三一（磐前炭鑛）四〇（加納炭鑛）一一七（本島炭鑛）一一（高野炭鑛）四（三友炭鑛）八（信友炭鑛）五（山口炭鑛）四（新茶炭鑛）三（大日本炭鑛東海鑛）一五四（同ナコツ坑）九四六（中野炭鑛株式會社）一〇（瀬戸炭坑會社）四一（黑田炭鑛）二三（鳳城炭坑會社富士坑）九二一（帝國炭鑛會社）二〇（廣部炭鑛第三坑）六五（王城炭坑第二坑業所）二七八（三澤炭礦坑業所）一四（山田岡炭鑛）二六（廣野炭坑）三九（高倉炭鑛）九（淺見川炭坑）三二（合計）一五七八〇八

馘首された憂晴しに魚釣りに出掛けたが

一尾も釣れずに溺死

石城郡磐崎村藤原炭礦四十六號長屋居住福島市阿彌陀堂生れ仕上工林幸太郎（四八）は一週間程以前、前記藤原炭坑の都合に依つて馘首されたが妻子八人暮しにて今後家族を扶養する事が出來ない爲め思ひ餘つて去る廿五日の朝から諸々方々にて燒け酒を仰り夕方近く氣を換へて釣竿を肩に同村大字湯長谷字湯臺堂の溜池に出掛けたが一尾も釣れずムシャクシャ腹にて同處に飛び込み自殺し平署齊藤部長檢視を遂げたと

松本警部補上京 平署警部補松本重吉氏は十月廿八日東京警察講習所に入所すべく廿八九日頃上京する

江名助役慰勞 石城郡江名町にては元助役河野嘉藏氏の送別會を廿四日午後一時より同町小學校に於て開會慰勞金七百二十圓を贈呈したが同氏は今後同町産業主事として働く事となつた

植田附近に住宅組合組織 平町にも是非

石城郡植田勿來關田を範圍とする有限責任植田住宅組合は有志の奔走により計畫中であつたが全く準備整ひ設立者植田町雫石菊雄外十七名連署で二十日知事宛設立認可申請書を提出したが出資額は八十五口で八百五十圓借入金は三萬六十圓を以て平屋十七戸を建築し月賦償還し所有權を各人に移す譯であるが一方平町では南町裏新道を開設と同時に平町の中心勢力を同方面に集中する傾向があり新築家屋の如きも日に〳〵增加するばかりであるが唯遺憾なことは同町には中流以下の俸給生活者に適當な住宅がないので道路の新設を好機とし住宅組合組織の計畫中であるといふから實現の曉は從來の如き不便は一掃されるであらうと

……不平受付……

……投書歡迎……

通夜に花合せ 平地方では葬儀の前夜に通夜をするに當つて棺の前で花合せ等に耽る風習があり是れが爲め賭博に興味を持つ事となり身を破滅させる者もある此風習は誠に惡い事と思ふから全廢せしめ度いと思ふが警察當局の意見は如何でせう

「町民生」

▲**樫村平署長の答** 一体通夜の晩に花合せの如き娯樂に耽る事は死者の冥福を祈る處以ではない、若し時間を過す方法の一つであつたとしたら他に何等か適當なものを選ぶべきで是れは各個人の德義心に訴へたい

新芋の料理（上）

▲**バタ芋** 生芋の大きいものを輪切にし、フライパンにラードを引いたものゝ上で上、下を反へしながら燒き、其兩面にバタを引いて用ゐるのであります

▲**芋の玉子ネリ** 蒸し芋をすり鉢でよくすり潰しそれに、卵の生の黄味だけを適宜に入れてよく練つて混ぜ合せ葡萄酒で風味をつけそれに少しく葱か、球葱の細く刻んだものを加へて尙ほソースをかけて用ゐるのです

▲**芋の牛乳ネリ** 前のやうに蒸したお芋を摺鉢でよく摺りつぶしたものを、適宜に牛乳を混ぜてよく練ります。それに少量の砂糖を加味し尙ほ林檎を薄く細くきざみましたものを混ぜて頂きます。これは消化よく子供や老人等には喜ばれます

常磐片々

○

馘首された憂晴しに燒け酒を仰つて魚釣りに行つたが一尾も釣れず『魚迄俺れを馬鹿にして居る』とムシャクシャ腹でドブン……

○

此男家内八人暮し

○

首を切つた會社も不景氣風の御都合からとあれば止むを得ないが斬られた男を救ふ丈に組織立つて居ない會社の欠陷を如何する

○

馘首――燒け酒――魚釣り――ドブン――。是れが果敢ない炭礦勞働者の一生

昨今の農村は……

一息ついたかたち

馬鹿騷ぎを止めて 貯金をする者が增加した

石城郡下に於ける農家の春蠶狀況は春繭の上繭は十二圓又は十三圓近くから下繭は七、八圓の程度で作年の春蠶當時の上繭で八九圓の當時から

比較し て平均四、五の高値をしめし糸價も新糸當時は百斤一千九百六十圓位で現在では二千一百圓高をしめしてゐるが、これによつて農村の金融狀態は著しく緩和されたものゝ如く見られ

不景氣 挽回の聲が高いが郡當局の觀察するところによれば、大正七、八年頃の好況時代の繭値は相當な高値をしめしてゐたのであるが一般に

農民か 浮薄で所謂成金時代を夢見て泡沫會社に投資するか、わけも分らぬやうな事業に手をだす、かくて折角得た黄金を不眞面目な方面に消費した結果として農民のふところには何等

殘る處 がなく或る方面の如きは却て負債を背負ひこんだやうな狀態である、その後農家の經濟狀況は全く遺り繰算段であつたが本年の春繭でこれ等の借財を返濟すると

同時に 成金時代の馬鹿騷ぎをやめて幾分の餘裕を殘して産業組合郵便貯金をするものが增加し農村の金融に頗る好轉したと見られてゐる、然し今の事情ではまだ農村は

實際の 好況であると斷定する事も出來ず幾分好況に向ひつゝあるに過ぎないだらうと語つてゐた

物見岡稻荷祭 最近その奥殿を改修した新裝を整へた平町物見ヶ岡稻荷の祭典は來月一日より二日へかけ盛大に執行さるゝが當日は全町に亘つて神輿の渡御あり且煙火及新田町美形連の手踊その他餘興もあることゝて今より賑ひを豫想されてゐる

川前青年協議 石城郡川前村大字下樋賣青年團にては幹部會を開き宮城縣下の大演習觀兵式を參觀すべき團員三名の選定を協議したと